

家康の大叔母君
(祖父清康の妹君)

久姫の霊を祀る 松林寺



家康より、久姫（久子の方）の追善供養を託され、葵の紋を許される！

院号	随念院
山号	常行山
宗派	浄土宗 鎮西派
本尊	阿弥陀如来
脇侍	観音菩薩・勢至菩薩・聖観音菩薩
創建年	永正11年(1514)
開基	大樹寺第5世 眞譽南香上人
住職	黒柳 専栄
住所	岡崎市赤沢町藏西49

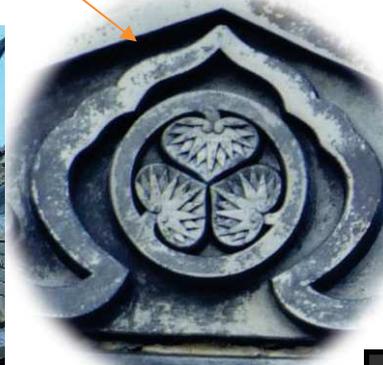


山号ではなく、院号が。
左は「松林寺」

正面奥は「本堂」
入って左は「地蔵堂」

◆本堂（墓地側から。1989年、先代が屋根の葺き替えなど）

◆庫裏 2014年に、建て替え…現住職



本堂内

9:52

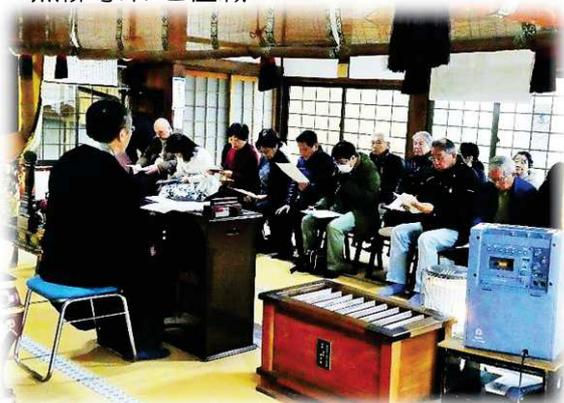
御焼香



随念院殿柱室泰栄大禅定尼

法名

まず、久
姫様にご
焼香



【黒柳住職のお話から】



- 松林寺は、浄土宗鎮西派。現在、鎮西派が一番大きい。（総本山；知恩院）
- 松林寺は、随念院 常行山 松林寺という。
普通は、山号⇒院号⇒寺号の順で表すが、当寺は、久姫を弔うということで、久姫の法名である「随念院」を頭に持ってきている。

山号=寺院の名前の上に付ける称号。もと、寺は多く山に建てられたため、その山の名で呼ばれたが、のちに平地の寺にも用いるようになったもの。鎌倉時代以後に平地の寺院にも及び、別称として一般化した。

○松林寺の「中興」（衰えていたものを再興）

① 第十四世 三誉上人

明治初年に境内の建築物を再建。
托鉢をして資金を集め、寺をきれいにした。

② 第十七世 立誉最榮上人（先代）

本堂屋根の葺き替え、境内整備などを行う。平成18年に、本山より僧正に序せられる。

先代住職



浄土宗(六階級) ⇒ 律師・少僧都・僧都・僧正・正僧正・大僧正。

松林寺由来

○1514年（永正11年）、大樹寺第五世・眞譽南香上人が、六ッ美の里赤渋ヶ原に、念仏常行三昧に最もふさわしい地として草庵を結んだことが、当山創建の基となる。（創建=初めて建てる）

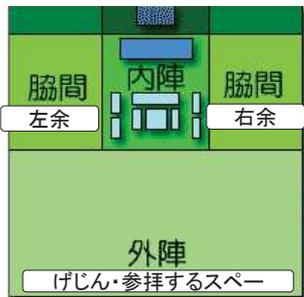
常行三昧 = 7日または90日を一期とし、阿弥陀仏のまわりを常に歩行し、その仏名を唱え、心に仏を念ずる行法。（常光三昧の草庵であったことから常行山と号す）

○その後、江戸時代を迎え、家康公が「赤渋ヶ原に念仏三昧堂あり」の風聞を得て、ここが大叔母君久姫殿の追善供養に最適の念仏道場だと、早速「霊牌」を下げ、永代念仏供養を託された。この時から「葵の紋」の使用を許され、領地五石をいただき、後に家光公より朱印を拝領した。

朱印状 = 朱印が押された公的文書。戦国大名・藩主や将軍により発給された。江戸時代において将軍が公家・武家・寺社の所領を確定させる際に発給したものは、領地朱印状とも呼ばれる。

○このご縁により、霊名「随念院」を、そのまま当山の院号に頂き、随念院常行山と称し、松林の中に堂宇があったので、寺号を松林寺と号す。

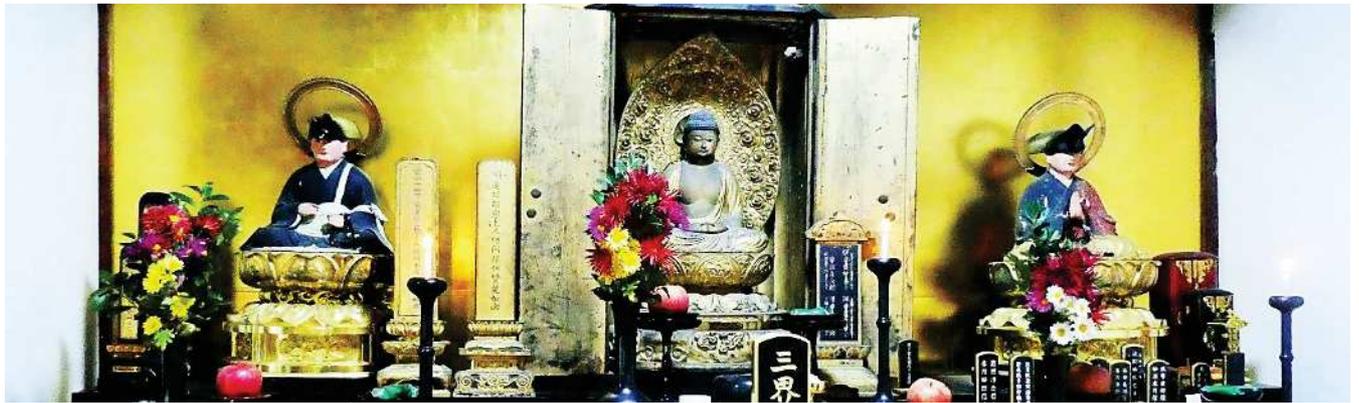
◆本堂内部



◆ご本尊 阿弥陀如来

10:49





法然上人像

浄土宗の宗祖。お念仏の元祖さま。

阿弥陀如来坐像

西方極楽浄土の教主。「南無阿弥陀仏」と唱えたあらゆる人々を必ず極楽浄土へ導く。寺院の半数以上の本尊は阿弥陀如来と言われる。

善導大師像

浄土宗の高祖、中国・唐における浄土教の大成者。



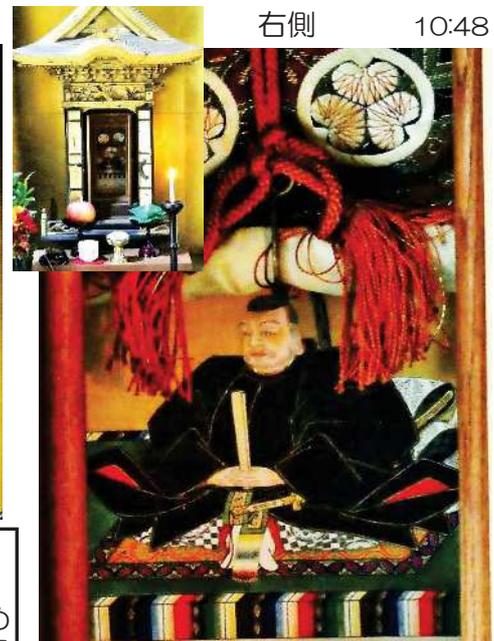
空海像 他諸尊像

空海=弘法大師。真言宗の開祖。高野山に金剛峰寺(こんごうぶじ)を建立



聖(しょう)観音菩薩像

世の中のありとあらゆる人を救うために様々な姿に変身する観音菩薩の、もとの姿。



厨子内神君家康像

- 当山は、創建から505年経っている。(5年前の)平成26年(2014年)に庫裏を建てなおした時、落慶法要とあわせて500年の法要を行った。
- 当山は、「葵会」の一カ寺。葵会は大樹寺の關係寺院(大樹寺の末山寺院)で、西三河(安城・碧南・豊田…)のお寺である。徳川の關係の方を吊っている。

◆地蔵尊

◆地蔵堂；身代地蔵尊



◆子育て地蔵尊



- 1835年(天保6年)、松林寺近くに、立派なお堂が創建され、安置されていた。このお地蔵さまに一度祈願すると「眼疾」が治り、また、生まれたばかりの子供が強健に育つと言い伝えられ、多くの参詣者があったという。
- 明治の中頃、当寺の住職 三誉上人が、本堂の西に移し鎮守堂に安置したが、老朽化し雨漏りなどしたので、新しい地蔵堂を建て、現在の場所に移した。

- その地蔵堂もまた老朽化したが、平成22年、一寄進により、新しい地蔵堂、手水舎を完成。
- 新しくなったことを契機に、「身代地蔵尊」と「子育て地蔵尊」と命名した。「身代地蔵尊」… 眼疾だけでなく、広い意味で、病気・不慮の事故、厄災などのすべての身代わりに。「子育て地蔵尊」… 子供を抱いたお地蔵さま(真ん中)。子供が健康に育つように。

久姫(久子の方)と 神君家康公



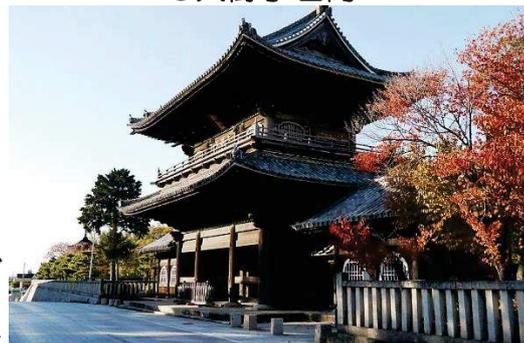
- 久姫は、
 - 家康の祖父 松平家17代 清康の妹である。
 - 家康の「大叔母」であるが、3歳から6歳まで育てた、「育ての親」（第二の母親の存在）でもある。
- 久姫の霊名は「随念院」。実名は久子。通称はお久の方（於久）。
- 久姫の経歴
 - 兄・松平清康の養女となって、大給(おぎゅう)松平3代 乗勝と結婚し親乗(ちかのり)を生む。1524年 乗勝29歳で没したため、1歳足らずの親乗を残して岡崎に戻る。
 - 一年も経たず、足助城主 鈴木重政の嫡男 重直に再嫁する。しかし、森山崩れ後の1535年頃に、重直は松平氏を離反するために彼女は離縁させられて岡崎城に戻された。

森山崩れ … 岡崎城主・松平清康が、尾張国春日井郡森山（現在の名古屋市守山区）の陣中において、家臣の阿部正豊に暗殺された事件。

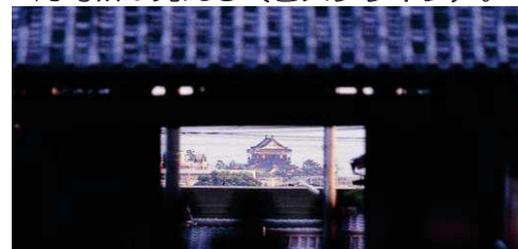
- 1544年、広忠の正室 於大の方（家康の母）が、松平家より離別され、実家へ戻る事となった。
- このことにより、幼少の家康（竹千代）の養育を、お久の方が行うこととなった。
- 家康は、その後、織田家・今川家の人質生活が始まる。その間に、岡崎へは二度帰って、竹千代はお久の方との対面を果たしている。
 - *今川では、人質ではあるが、臨濟寺（現・静岡市）で教えを受けるなど、大切にされていた。
- 桶狭間の合戦（1560年）により、今川家を解放された家康は、岡崎に戻り、東の間ではあったが、お久の方と共に暮らした。1561年8月2日、お久の方ご逝去。
 - *合戦のあと、家康（元康）は少数の手勢だけで大樹寺に逃げ込み一旦はここにいた。寺に攻め込んだ落ち武者狩りに対し、寺僧の一人、祖洞和尚(そどうおしょう)が門のかんぬきを持って打って出て、70人力で奮戦し敵を蹴散らしたと伝わっている。その貫木神(かんぬきしん)が、現代の大樹寺に祀られている。
- お久の方の遺言：①兄・清康を茶毘に付した菅生丸山において、自身も同様にしてほしい。
 - ②兄・清康と自信の追善供養に、一カ寺の創建を。
- この遺言を受けて、家康は、一周忌法要を行うと同時に新寺開基となり、一カ寺を創建し、清康と久姫の御廟所を建立した。この寺が、「随念寺」（岡崎市門前町）である。
 - *「随念寺」… 浄土宗。山号・院号は仏現山善徳院。家康が1562年に興し、本堂は2代将軍秀忠が寄進。
- 久姫の菩提を弔う寺院は、「随念寺」（墓がある）、岩津町於御所の「西林院」、西尾の「紅樹院」、「松林寺」（当寺・お位牌がある）の4カ寺である。

参考写真

●大樹寺 山門

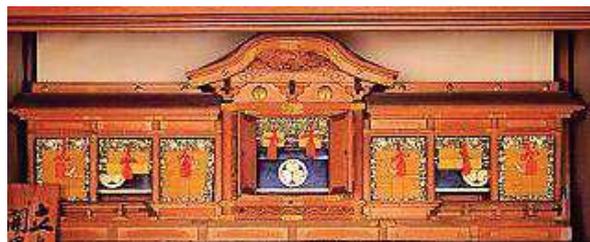


●境内から山門を通してその真ん中に岡崎城が見える（ピスタライン）。



●貫木神

「かんぬき」が納められている厨子。



久姫（お久の方）は竹千代（家康）が今川氏の人質となっていた時代には安祥松平家の中で唯一岡崎にいた人物であり、竹千代（家康）に代わって松平氏当主の権限の一部を代行していたとする説を唱える研究者もいるほどの大きな存在であった。 ウィキペディアより



10:59

終了です。

ありがとうございました。



(記)竹内 喜則